長浜曳山まつり
Nagahama Hikiyama Festival

さんやくしゅぎょうじゅく

三役修業塾

定期発表会

平成30年 12月9日（日）
平成31年 1月27日（日）

〈場　所〉長浜市曳山博物館 伝承スタジオ
〈時　間〉午後2時より開演（申込不要）
〈参加費〉無料

三役修業塾（さんやくしゅぎょうじゅく）とは

長浜曳山祭で演じられる子ども狂言（歌舞伎）は、毎年様々な演目が長濱八幡宮に奉納される。長浜では、曳山狂言の演技指導者を振付、浄瑠璃（義太夫）語りを太夫と呼び、三味線を含め三役という。

かつて三役は、滋賀県外、日本各地から招聘していたが、高齢化にともない地元での養成の必要性が議論された。平成2年、「ふるさと創生事業」を活用し、設立した「子ども歌舞伎伝承基金」を元に、三役修業塾を開講した。義太夫と三味線部門に加え、平成28年には振付部門を開講。曳山祭に欠くことのできない子ども歌舞伎の演技指導（振付）と義太夫語り、三味線の奏者の育成を行っている。

〈主催〉公益財団法人長浜曳山文化協会　滋賀県長浜市元浜町14-8　☎0749-65-3300

演題

平成30年 12月9日(日)

【義太夫部門】

一、絵本太功記 十段目 尼ケ崎の段（前）

浄瑠璃 竹本 龍豊太夫（金澤豊） 三味線 千與龍（嶋崎正明）

【義太夫部門】

二、絵本太功記 十段目 尼ケ崎の段（中）

浄瑠璃 竹本 甚太夫（桐山惠行） 三味線 豊澤 龍三（小池充）

平成31年 1月27日(日)

【義太夫部門】

一、寿式三番叟

浄瑠璃 岸田健太 三味線 中川太吾 山田蒼生

【義太夫部門】

二、恋飛脚大和往来 新口村の段

浄瑠璃 竹本 壽太夫（伊藤八壽男） 三味線 豊澤 楓賀（七里八須子）

＊指導 豊澤千賀龍、豊澤賀祝

あらすじ

絵本太功記 十段目 尼ケ崎の段

小田春永（織田信長）を討った武智光秀（明智光秀）は、中国から戻る真柴久吉（羽柴秀吉）を迎え討とうとしたが、あと一歩のところで久吉の家臣加藤正清（加藤清正）らによって阻まれた。（前段まで）

光秀の母皐月は倅が主君を討ったことを恥じ、尼ケ崎に隠居している。そこに九死に一生を得た久吉が旅僧となって、一夜の宿を求めて潜んでいる。また、光秀の妻操、倅十次郎の婚約者初菊も皐月のご機嫌伺いに来ている。十次郎は出陣の許しを願うため、祖母に会いに来ていた。十次郎は初菊と祝言を交わし、出陣していく。光秀は久吉がこの隠居に来ていることを知っており、仕留める機会をうかがっていた。風呂場で聞こえる物音は久吉のものと、竹鑓で物陰から突くと誤って皐月を刺してしまう。刺されて息も絶え絶えながらも、主君を討った光秀を責める。操も光秀を諫めるが、聞き入れず、武士の道を貫いたと主張する。

恋飛脚大和往来 新口村の段

飛脚問屋亀屋の養子である忠兵衛は、馴染みの遊女梅川に会いに油屋へ来ている。そこへ幼馴染の八右衛門が梅川を身請けするためにやってくる。忠兵衛の悪口を言い出す八右衛門と口論になり、言い争う内に為替の封が切れてしまう。（封印切の段）

公金横領は死罪であり、覚悟を決めた忠兵衛と梅川は、忠兵衛の故郷の新口村に帰ってきた。二人が人目につかないように潜んでいると、目の前に忠兵衛の実父孫右衛門が通りかかる。孫右衛門は氷に滑って転倒し、それを梅川が介抱する。梅川と話しているうちに孫右衛門は忠兵衛が近くに隠れていることや梅川がその身請けされた遊女であることを察し、子を思う親の気持ちを伝え、二人を逃がす。